

2021/08/06

第 17 期 小平市緑化推進委員会
第 6 回資料

意見・提案集約

(第 1 回～第 5 回および緊急提案意見等)

凡 例

- 1-1** たたき台に盛り込んだ提案
- 1-1 たたき台に盛り込めなかった提案
- 赤字** 第 5 回での提案と前回の集約でもれていた提案

意見・提案の集約

(1回から5回および緊急提案に対する意見)

第1回

1-1 近年発生しているナラ枯れについて、予算を必要とすることであるが、今、対応しなければ危険があると感じる。早く対応して焼却処分が必要と考えている。

1-2 雑木林を維持するためにはどうするかといったことを考えることが必要である。

1-3 近年用水路の水量の問題もだんだん改善されてきていると聞く、市の東側の用水路にはほとんど水が通っていない。東部にあるすべての用水に水を通すことは難しいと思うが、どれか1つ、例えば鈴木用水等に絞って水を通すなど考えてみてはどうか。

1-4 新府中街道が通った場合、中央公園の緑はどうなるのか。また、玉川上水に橋を架けた場合、なくなった緑地帯の分を、他の場所で担保されるべきである。

1-5 鎌倉公園や鷹の台公園の整備について市民の意見を取り入れることが重要である。市内のブリヂストンが工場再編整備を行っている。そこでの緑の広場が重要となってくる。緑化推進委員会として何か提案したい。

1-6 鷹の台公園整備は水車通りに面しているため、第14期緑化推進委員会提言の水車をつくってみたいらどうか。

1-7 宅地開発により生まれた小さな公園がたくさんあるこれら公園をどのようにしていくかを考える。

1-8 学校ブロック塀（金網フェンスを含めて）生垣化の促進。農家生垣（ヒイラギモクセイ等）の学校境界での復活。

1-9 玉川上水雑木林について、クヌギについては剪定する木と方法を特定し、計画的に切る。コナラも高木化しているので樹高を抑える必要がある。ケヤキは本数事態を制限する必要がある。

野火止用水雑木林について、樹齢から見て可能な木には、「萌芽更新」をかける。スポット的に地面に日のあたる場所をつくることも有効です。

1-10 市民参加による管理、管理グループの育成/資格の授与。オープンガーデン所有者や保存樹林の所有者、緑化事業の推進者等を功労者として大きく表彰する。大きく讃える

ことで市民意識の啓発につなげることができる。さまざまな園芸ワークショップに開催、例えば剪定枝を利用したシイタケ、ナメコ、ヒラタケ栽培等の講座を開講、各自持ち帰らせて木の利用意識を育む。

第2回

2-1 鎌倉公園（約2.9畝）鷹の台公園（約1.9畝）2つのおおきな公園の整備は小平グリーンロードにおけるエメラルドネックレス計画の位置づけにあたり、小平中央公園を中心に東に鎌倉公園、西に鷹の台公園という連続した緑の空間を意識して整備を図る。

2-2 鎌倉公園については、都市型農業、農の風景を残して、農を学べる公園とする。

2-3 鷹の台公園については、平坦な地形であることから、防災公園としての機能（大きな原っぱ、かまどベンチ、マンホールトイレ等）を備えた、芝生原っぱの公園を提案します。水車の設置には賛成します。鷹の台駅や玉川上水、大学等の学校、住宅地から行きやすいシームレスな空間を提案します。

2-4 花の街小平大作戦（ハンギングバスケット設置）の早期実現は、小平駅南口からルネ小平までのあかしあ通り数十mについてまずモデル区間として実施し、ハンギングバスケットによる立体花壇のすばらしさを小平市民に知ってもらうことを第一の目的として実施します。費用についてはクラウドファンディングによる整備費や管理費の導入も考える必要があります。ハンギングバスケットに企業名を入れて、宣伝効果と収入を図る。

2-5 開園から35年以上経過した小平中央公園等の遊具・樹木等の安全対策の提案。

2-6 ブリヂストングランドの一般開放の要請。

2-7 どんぐり里親制度において育てた苗木を市の公園等で多く活用できないか。

2-8 ナラ枯れ対策を検討課題として提案しよう考える。ナラ枯れの具体的内容を委員会として把握し、検討を重ねて提言につなげることが必要です。

2-9 通常提言とは別に今年度中に「緊急提言」を出すべきです。

2-10 クビアカツヤカミキリについても予防または侵入が確認された場合のとるべき対策を提言すべきです。

2-11 鎌倉公園の農にふれあう公園について、都市農業の発展基地としてつながりができればよいと考える。

2-12 ナラ枯れで枯れた木の落枝問題は多岐の管理者におよぶため、特に通学路である玉川上水や松の木通りで安心安全の生活空間のために市民による通報システムを考える必要があります。

2-13 街の中にハンギングバスケットを行うのもよいが、公園で行ったほうが良いのではないかな。

2-14 小平駅の花壇の植替えはボランティアで行っているが、高齢化が進んでおり、若い人たちどのように参加させるか人集めの方法を考える。

2-15 どんぐり里親制度で育てられた苗木を市の公園等で活用できないか。

第3回

3-1 ボランティア活動参加促進策として市民の協力を引き出すには杉並区等で実施している応援ポイント制度を提案します。小平市の場合、幼児から高齢者まで幅広い年代を対象とし「オールこいだいら」のボランティアが緑を守る意識涵養につなげる。

3-2 落ち葉の感謝祭-都市生活で嫌われるだけの落ち葉ですが「落ち葉に感謝」という啓発するという目標に向けて一步一步すすめることが必要。緑がまだまだ残っている小平では「当然の緑」として扱われることが多いが「感謝」の意識を醸成することが必要です。

3-3 用水路について、用水路は小平の歴史そのものです。小平の歴史において用水路は小川九郎衛の想いが感ぜられる場所です。小平市民に再認識、アピールする必要があります。用水路の分岐点、築樋、狸彫り、水門、サブタ等特別な地点にチェックポイントを作って解説版を設け用水巡り散策コースとしてマップ作りやHP等での紹介。また、小中学校の環境学習としてすえ、今まで以上に用水路の歴史的価値を再認識してもらう。実際に用水路を利用した畑を作ってみたらどうか。

3-4 小規模な提供公園については、統合して大きな公園をめざすとともに、個性ある公園への変身をめざして、毎年リニューアルしていく、個性的な要素については広く市民からのアイデアを募る。

3-5 「都心から一番近いプチ田舎」をどのように取り組むについて農業公園をめざす鎌倉公園整備を例に実現できればと提案します。

3-6 鎌倉公園整備管理にあたっては、専用の堆肥化ヤードを設置し、農業公園で発生する野菜くずや落ち葉などを堆肥化し、堆肥ができれば再び農業公園で活用する循環仕組みを実現する。その実際のプロセスを市民各層が実見できる仕掛けを構築することを提案します。それはすなわち「廃棄ゴミも活かせば資源」との思考を普及させる一助となります。(第4回でも議論)

3-7 鎌倉公園の整備にあたっては、青梅街道南側を流れる小川用水から鎌倉公園に新たな分水を設け、洗い場等を設置して新田開発当時の小川用水の姿を再現し、往時の用水の恩恵を理解できるよう整備することを提案します。さらに新分水の名称は「令和用水」と名付け、玉川上水から脈々と受け継がれる上水・用水の歴史認識の理解が深まり、用水の認知度向上に役立つと考えます。(第4回でも議論)

3-8 太陽光発電等自然エネルギーさらに野菜クズなどを利用したバイオマス発電等で可能な限り、鎌倉公園内の電力需要を賄う設備の整備を提案します。また充電装置を備えることでさらなる利用に寄与できます。(第4回でも議論)

3-9 民間農家が経営する体験農園について、市内5か所に点在するように配置されています。どの地域の方も手が届きやすいようになっています。利用者が非常に多く好評をえているが、新規利用者と辞める人が同数程度です。鎌倉公園で行政と民間が同じ内容で体験農園を行うと競合することとなる。体験農園を行うだけの考えでなく、障害者や子どもたちの農業体験等福祉や教育機能の面を持たせ、行政と民間のすみわけが必要です。

3-10 ナラ枯れ病被害木について、松の木通り等通学路になっているため、できれば落枝や倒木の危険が考えられるので学校と管理する公園部局が情報共有を行いリスクを未然に防いでいただきたい。

3-11 公園を整備する際に、落ち葉等を集め堆肥にするところを見せる場所を設置することを提案します。そしてその堆肥の活用する手段についても仕組みを作ることが必要です。

3-12 落ち葉対策として、提案のあった落ち葉感謝祭のように人員を集める工夫と落ち葉堆

積施設を設けることを提案します。また落ち葉収集に協力していただいた方に「雨どい清掃券」を配布し、落ち葉が雨どいにたまる時期に行使できるようにするのも良い。

3-13 用水路に関しての PR 棟の計画には同意見です。緑化のものは水であるため、水を全面に出すことで緑を大切にすることにつながる。用水路は小平遺産であり水を全面に出すことを提案します。

3-14 提供公園について、屋敷林がある土地所有者が開発業者に売り、住宅を建てるため木が伐採されももとの屋敷林がなくなってしまうためできれば、市で買い上げて屋敷林を残す工夫を提案します。

3-15 都市農業公園では野菜の盗難対策を講じる必要があります。

第 4 回

4-1 「小平市におけるナラ枯れ病対策の緊急提言」

” 詳細は略”

4-2 鎌倉公園について、市民に環境保全型の農業を実地で見せるという視点は良いと思う。また用水は小平市のイメージを作り上げる中の重要なポイントであり、またそれによって発展してきたという歴史的経緯もあるので公園の中に用水路としての機能が伴うのは難しいが、見せる形の用水があればと思う。公園の周囲を堀のような形に、ポンプアップするようになれば循環できると思う。武蔵野線の湧水の利用について、高低差だけで流すのは困難だが、人工的にポンプアップすれば可能であるため、工夫して実現できると思う。

4-3 鎌倉公園の農園は現在民間で行っている体験農園と競合する部分が大きいため、市民にお願いするにあたって、官民がかみ合っていないのではないかと思う。どう行政と一緒にやっていくか今後詳しく検討する必要があります。

4-4 小平市民の農業体験そのものは民が主体となってやっていくものだと思う。鎌倉公園の農業体験は民間の体験農園の圧迫にならないように配慮すべきです。例えば鎌倉公園の農業体験はお試しの 1 回とし、相場に見合った応分の負担をしてもらう。その後は民間の体験農園に移行してもらう。そしてその移行率により行政評価をする等、利用計画

を明確に構築していかなければならない。農家の人が農業を続けられる環境をつくることが農地としての緑を守ることにつながる。

4-5 宅地開発で整備される小規模提供公園については、再開発時等の機会をとらえ条例等を整備して数個を統合して面積を広く確保した公園に変身させる必要があります。

4-6 学校校庭天然芝生化について、小平 13 小の成功例をどのように評価し、成功した要因を探るとともに、どのようなサポート施策を考えれば校庭の天然芝生化が実現するかを検証する必要がある。

緊急提言に対する意見およびその他意見・提案

4-7 次世代コナラ等雑木林育成の好機とありますが、雑木育成システムおよび萌芽更新でナラ枯れ対策を行う提案をします。

4-8 鎌倉公園の整備で、公園の体験農園のショーウインドウのように機能させ、民間の体験農園と競合しないようにすべきです。もっと体験農園を続けたい人は民間の体験農園に移行するシステムを考える必要があります。
農業公園では農家の方を講師に迎え、農に親しむきっかけを作る機会と捉えるのがベターです。

4-9 ナラ枯れ病について、現況で判明している穿入生存木に「粘着シートの巻き付け」の実施を提案します。

4-10 ナラ枯れ病について、緊急に市民に「市内雑木林が存亡の危機に見舞われています！」急ぎ市報で知らせることを提案します。

4-11 上記趣旨で「緑の危機説明会」開催し、公民館運動として推進を提案します。

4-12 ナラ枯れ病についての地区別対応と地区別行動計画を作成しましょう。

4-13 ナラ枯れの今季終了時期に中間報告会を開催しましょう。

第5回

5-1 宅地開発で生まれた小さな公園をどうしていけばよいか検討すべき。

5-2 ハンギングバスケットはルネ小平を中心に実施すべきである。さらに公園の中で実施を検討すべきである。

5-3 鎌倉公園の名称が農業公園となるならむしろ「都市農業公園」とすべきである。

5-4 **インクルーシブ公園の提案**

-